香村の絵馬

香村の絵馬（三顧礼図）

平成二年一二月　村重要文化財指定
所在地　新鶴村大字新屋敷字村中一一一一
（常福院　本堂）
管理者　新屋敷部落　（常福院）

遠藤香村（一七八六～一八六四）は、江戸時代末期、大戸村香塩（今の会津若松市上三寄）に生れ、若くして江戸に出て谷文晁に師事し、実用としての洋風画を学んだ。また、京都でも修業し、丸山四条派の真髄も会得している。更に、会津藩絵師補に就いた後にも、白河藩絵師亜欧堂田善に油絵を学んでいる。

香村は絵師としてばかりではなく、改革の進められた当時の本郷焼きや会津漆器、絵ロウソク等の産業や文化に、幅広い活動の足跡を残している。特に会津に洋風画を導入したことで知られ、その洋風画は専門家にも高く評価されている。

常福院本堂にある香村筆の絵馬は、中国三国時代の歴史物語「三国誌」の中から「三顧の礼」に題材を取った唐人画である。

縦八二センチ、横一六五センチ